

目指す子ども像 ふるさとを愛し、心豊かでたくましい子ども



東目屋地区コミュニティ・スクール通信



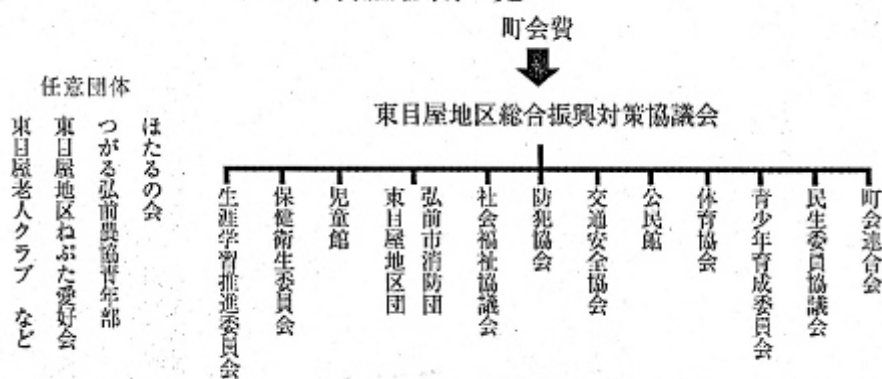
第2号 平成29年3月9日 東目屋小・中学校 文責(佐藤)

地域とともにある学校づくり

東目屋中学校区では、これまでも保護者や地域の皆様に協力をいただきながら、子どもたちの健やかな成長のための活動を行ってきました。コミュニティ・スクールへの移行を機会に学区PTA協議会をはじめとして、地域にある下記の組織（平成28年度版）とも連携をとりながら学校、家庭、地域との触れ合いを深めていきたいと思ひます。学校の行事や活動を参観していただいたり、協力していただくことを通して、子どものために、または地域のためにもっとやれることはないかということをお互い知恵を出し合い考えていきたいと思ひます。

子どもが地域の魅力に触れることで、地域への愛着や誇りが芽生え、ふるさとへの意識が育っていくと思ひます。

<東目屋組織一覧>



保護者の協力でもちつき会



もちつき会で国吉獅子舞を披露



選果では保護者と農園OBも協力

コミュニティ・スクール Q&A

■ 学校運営連絡協議会で何を協議するのですか。

教育委員会から任命された委員が学校運営の基本方針を承認したり、学校運営に意見を述べます。上述したように子どものためにどんなことに取り組んだらよいかということも含まれます。他に、教職員の任用に関する意見を述べたり、学校運営等に関する評価も行います。

なお、次年度 第1回学校運営連絡協議会の開催は4月24日(月)を予定しています。当日は、弘前市の教育自立圏アドバイザーである高橋 興 先生(青森中央学院大学)のご講演も予定しております。

■ 学校運営連絡協議会委員にはどんな方がなるのですか

保護者の代表としてPTA会長、PTA役員など、地域の代表の方として町会長や民生委員長、公民館長、児童館長など、さらに学識経験者などが委員となります。学校からは校長・教頭が委員となります。協議会の委員の定数は小中学校ともそれぞれ10名以内となっています。

小中一貫教育システムに向けて

東目屋小・中学校はコミュニティ・スクールとともに、小中一貫教育システムにも取り組んでいます。小学校と中学校の垣根を低くし、児童生徒だけでなく、教職員の交流も深めていきます。

中学校でどんな活動するの？

新入生体験入学 2月9日

中学校の体育館で14:50～15:50に行われました。4月に入学する東目屋小学校、西目屋小学校、高杉小学校の児童15名(インフルエンザで5名欠席)と保護者が参加しました。今年度は、校舎見学会や中学校生活についての説明の他に生徒会役員による行事、部活動などの



スライドを使って説明する生徒会役員



インタビューに答える6年生

スライド上映や児童へのインタビューも行われました。「早く中学校生活をしてみたい」とか、「部活動頑張りたい」といった声が聞かれました。

正負の計算やりました！

中学校から小学校へ出前授業

2月23日、24日

トランプを使って、正・負(プラスとマイナス)の数の意味、足し算と引き算のやり方について2時間かけて数学の授業を行いました。同じ内容を西目屋小学校でも2月27日、28日に実施しました。

児童の感想

最初は、ちゃんとやれるか不安だったけど、やっているうちにだんだん慣れて練習問題も解けたので良かったです。

数学の勉強は正直とても難しくて苦手な勉強の中に入っていたのですが、やっていたらとても楽しくて楽しみな勉強の一つになりました。他の教科もとても楽しみにしています。

数学の授業を受けてみて、中学校の勉強が難しくなっていくことがわかりました。楽しかったことはトランプゲームで+と-の計算を楽しみながら勉強できたことです。

トランプを使ったゲームは頭を使いながらやったので普通のトランプよりも楽しかったです。中学校では部活動を頑張っていきたいです。



説明を受けて



トランプゲームで計算を体験

次年度 児童生徒の交流の機会を増やす



自分の夢を語る立志式



中体連での決意を述べる壮行式

今まで行われていたりんご栽培体験学習以外でも、中体連壮行式や合唱コンクール、2年生で行う立志式など中学校独自の行事を参観してもらい、もっと中学校の生活を感じてもらおう機会を増やしていきたいと考えています。